

予測文法研究(2) 一語の担う意味一

池上摩希子・大野早苗

(1995. 7. 1 発表)

1. 「予測文法」について

私たちが文を理解するときには、その文を最後まで読んだり聞いたりしなくても、母語話者であれば次にどんな言葉がくるか、ある程度、予測できると思われる。例えば、「待ちに待った夏休みが……」という語句の後には、「やって来る」とか「始まる」というような述語が予測できるだろう。このように、文を理解する能力には、言語情報を処理して意味を抽出する能力に加えて、与えられた言語情報を引き金に次にどのような語句が続くのかを予測する能力が含まれると考える。本研究では、こうした能力をOller(1979, 1983)に従って「予測文法」と呼び、どのような要因が関与しているのかを明かにしたい。

予測に関する先行研究としては、寺村(1987)、市川(1993)があげられる。寺村(1987)は日本語母語話者を対象に、ある文を文節ごとに区切ってそれを順次提示し次に続く語句を予測させて文を書かせる実験を行い、その結果を報告している。そこでは、日本語母語話者はかなり早い段階から、名詞文、動詞文といった文の種類や、表現内容の種類、テンスを予測したり、また、「名詞+助詞」「名詞+助詞」という連なりから一定の種類動詞を予測することなどが指摘されている。市川(1993)は、寺村と同じ文と同じ方法を用い、日本語学習者を対象にデータを収集した。その結果から、予測に必要な能力を、文構成に必要な能力と語彙上の能力に分けて報告している。予測に関わる要因としては、音声や語、文、談話など、さまざまなレベルの言語要素が考えられているが、寺村、市川ともに、文脈に現れた言語情報だけではなく、社会通念や常識といった文化にかかわる要因も含まれていると指摘している。

2. 研究目的と調査方法

本研究では、「文」という言語範疇内で、与えられた文の構成要素からどのような構成要素が予測されるかを考察する目的で、データの収集、分析を行っている。これまでに、助詞「は」と「が」に焦点をあて、「は」と「が」が後に続く部分の予測にどのように機能しているかを分析した。その結果、「は」

と「が」の予測機能についていくつかの考察が得られた(参考文献②)が、今回は、助詞「は」と「が」以外の要素がどのような予測に結びつくかを見るため、また、言語情報が文脈の外にある意味とどのように結びつくかを見るため、先行とは別の文を調査文として選び、データを収集し分析した。

対象とした文とデータの件数は以下のとおりである。

[1] 「冬休みが／始まった／次の日に、／谷川先生に／京都へ／連れて行って／いただきました。」43件

[2] 「冬休みの／始まった／次の日に、／谷川さんに／京都へ／連れて行って／いただきました。」22件

データ収集に際しては、寺村(1987)、市川(1993)とほぼ同様に、調査文を区切りまで板書し、被験者に一斉に用紙に記入してもらう方法をとった。調査文を「/」の箇所まで板書し、被験者に後続く文を予測させ、一斉に用紙に記入させた。具体的には、文[1]では、「冬休みが」と板書し、「次に続けて思いつくままに書いて、文を完成させてください。」と指示する。被験者は用紙に「冬休みが」で始まる一文を書く。続けて「冬休みが始まった」と板書し、2枚目の用紙にその部分で始まる文を書いてもらう。最後に、調査文に続く第2文を予測して書いてもらった。

3. 分析結果と今後の課題

文[1]、[2]について、上記の区切り毎にどのような予測がなされたか、稿末に表としてあげておく。そこから予測に関して考えられることをまとめると以下ようになる。

- ・「名詞+の」は主語として予測されにくい。
- ・助詞「に」をagent marker(動作主標識)として捉えるためには、ある程度、状況が必要である。すなわち、「名詞+に」の段階ではその名詞をagent(動作主)として捉えにくい。
- ・予測には言語使用の背景となっている言語外情報が大きく影響する。

また、今後は、

- ・日本語学習者の予測の仕方について調査し分析すること。
- ・母語話者と学習者の予測の仕方の相違点を指導に援用すること。

の2点を課題として、引き続きデータの収集と追検証を行っていかねばならないと思われる。

【主な参考文献】

- ①市川保子(1993)「外国人日本語学習者の予測能力と文法的知識」『筑波大学留学生センター 日本語教育論集』第8号 (pp. 1-18) 筑波大学留学生センター
- ②内田安伊子・池上摩希子・大野早苗・大島弥生・長友和彦(1995)「予測文法研究(1): 「が」と「は」の予測機能について」『言語文化と日本語教育』第9号 (pp. 134-159) お茶の水女子大学日本言語文化学会
- ③酒井たか子(1995)「文の適切性判断のための一試案—後続文完成問題における日本人との比較—」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』第10号 (pp. 19-28) 筑波大学留学生センター
- ④寺村秀夫(1983)「聞き取りにおける予測能力と文法的知識」『日本語学』第6巻第3号 (pp. 56-68) 明治書院
- ⑤Oller, J. (1979) *Language Tests at School*. London: Longman
- ⑥Oller, J. (1983) Evidence for a general language proficiency factor: an expectancy grammar. In J. Oller (ed.), *Issues in Language Testing Research*. New York: Newbury House.

発表者 : 池上・大野 (お茶の水女子大学日本言語文化専攻修士2年)

共同研究者: 内田安伊子 (お茶の水女子大学日本言語文化専攻修士2年)
大島 弥生 (香港大学)

(注) 本研究は平成7年度文部省科学研究費 (一般研究B [06451159] 「日本語学習者の文の予測能力に関する研究及び読解力・聴解力向上のための教材開発」代表・平田悦朗) の補助を得て継続中の研究プロジェクトの一部である

① 冬休みが / の

	「が」を主語として捉えた	感情表現の対象として捉えた
[1] 文	78.6%	21.4%
[2] 文	「の」後は100%が名詞	

- ★例 [1] ①冬休みが始まりました。(主語)
②冬休みが終わる前に、スキーに行こうと思っています。(主語)
③冬休みが待ち遠しい今日このごろだ。(感情)
- [2] ①冬休みの予定はもう決まりましたか。
②冬休みの宿題をやった。
③冬休みの計画を立てよう。

② 冬休みが / の 始まった

	始まったら	始まったので	連体修飾
[1] 文	41.5%	26.8%	24.4%
[2] 文	100%		

- ★例 [1] ①冬休みが始まったら、どこかに旅行に行きたい。(～たら)
②冬休みが始まったので、私はとてもうれしかった。(～たので)
③冬休みが始まったその日に、ここで初雪が降りました。(連体修飾)
④冬休みが始まった子どもたちが騒いでいる。(連体修飾※)
- [2] ①冬休みの始まった日にさっそくスキーに行った。(連体修飾)
②冬休みの始まったところに、いつも雪が降ります。(連体修飾)
③冬休みの始まった人たちが遊んでいる。(連体修飾※)
- ※ = 「子どもたち」「人たちが」が連体修飾節の底となっている例

(3) 冬休みが／の 始まった次の日に

	過去の出来事について	予定や計画について
[1] 文	72.1%	27.9%
[2] 文	95.5%	4.5%

- ★例 [1] ①冬休みが始まった次の日に、スケートに行った。(過去)
 ②冬休みが始まった次の日に、友達から電話がありました。(過去)
 ③冬休みが始まった次の日に、アメリカに行くことにしました。(予定)
- [2] ①冬休みの始まった次の日に、スキーに行きました。(過去)
 ②冬休みの始まった次の日に、私は家の大掃除をしました。(過去)
 ③冬休みの始まった次の日に、友人と会う約束をした。(予定)

(4) 冬休みが／の 始まった次の日に、谷川先生／さんに

	「谷川先生／さん」への働きかけ	「谷川先生／さん」が動作主
[1] 文	76.2%	23.8%
[2] 文	81.8%	13.6%

- ★例 [1] ①冬休みが始まった次の日に、谷川先生に会った。(働きかけ)
 ②冬休みが始まった次の日に、谷川先生に電話をかけました。(働きかけ)
 ③冬休みが始まった次の日に、谷川先生に家へ来るよう言われました。(AG-M)
- [2] ①冬休みの始まった次の日に、谷川さんに会いました。(働きかけ)
 ②冬休みの始まった次の日に、谷川さんに電話をかけました。(働きかけ)
 ③冬休みの始まった次の日に、谷川さんにプレゼントをもらった。(AG-M)

AG-M=agent marker

(5) 冬休みが／の 始まった次の日に、谷川先生／さんに京都へ

	「谷川先生／さん」が動作主	その他
[1] 文	72.5%	27.5%
[2] 文	100%	

- ★例 [1] ①冬休みが始まった次の日に、谷川先生に京都へ行こうと誘われました。(AG-M)
 ②冬休みが始まった次の日に、谷川先生に京都へつれていってもらった。(AG-M)
 ③冬休みが始まった次の日に、谷川先生に京都へ旅行することを伝えた。(その他)
- [2] ①冬休みの始まった次の日に、谷川さんに京都へつれていってもらった。(AG-M)
 ②冬休みの始まった次の日に、谷川さんに京都へ行ってもらった。(AG-M)
 ③冬休みの始まった次の日に、谷川さんに京都へ行かないかと誘われた。(AG-M)

(6) 冬休みが／の 始まった次の日に、谷川先生／さんに京都へ連れていって

	もらう・いただく	その他
[1] 文	85.7%	14.3%
[2] 文	77.3% (「もらう」のみ)	22.7%

- ★例 [1] ①冬休みが始まった次の日に、谷川先生に京都へ連れていっていただきました。
 ②冬休みが始まった次の日に、谷川先生に京都へ連れていってと懇願した。(その他)
 ③冬休みが始まった次の日に、谷川先生に京都へ連れていって下さいとお願いするつもりです。(その他)
- [2] ①冬休みの始まった次の日に、谷川さんに京都へ連れていってもらった。
 ②冬休みの始まった次の日に、谷川さんに京都へ連れていってほしいと言われた。(その他)
 ③冬休みの始まった次の日に、谷川さんに京都へ連れていってよ、と頼まれた。(その他)

(7) 冬休みが／の 始まった次の日に、谷川先生／さんに京都へ連れていっていただきました。

	「京都」が話題	「谷川」が話題	「私」が話題
[1] 文	62.8%	9.3%	25.6%
[2] 文	86.4%	9.1%	

- ★例 [1] ①京都の雪景色は、最高に美しく、感動した。(京都)
 ②谷川先生は京都で有名なある会社の社長の息子で、京都駅にお迎えの車が来ていました。(谷川先生)
 ③私は夢で京都の町を歩いていました。(私)
- [2] ①京都はとても寒かったです。(京都)
 ②谷川さんは私のバイト先の先輩です。(谷川さん)